

Trait d'union

トレデュニオン

VOL. **51**
2016-4



- 創立 50 周年記念祝賀会 開催報告 2-9
- シューフィッター補習講座 (東日本支部)
子どもの足の成長とフィッティング 10-15
- シューフィッター補習講座 (西日本支部)
(株) アサヒコーポレーション工場見学 16-19
- 事務局便り



一般社団法人 **足と靴と健康協議会**
FOOT, FOOTWEAR AND HEALTH ASSOCIATION



創立 50 周年記念祝賀会 開催報告



(撮影) ポスティコーポレーション 佐久間 茂

平成 28 年 2 月 10 日(水)浅草ビューホテル 3 階「祥雲の間」において、午後 2 時から記念祝賀会を開催。当会は昭和 40 年日本婦人靴研究会として創立、現在は一般社団法人 足と靴と健康協議会として 50 周年を迎えました。当日は経済産業省、日本皮革産業連合会をはじめ靴業界団体、メディア各紙、FHA 会員各社及びシューフィッター認定者など 130 名に及ぶ皆様のご参加で大変盛り上がり、あちこちで懐かしい昔話と共に和やかな歓談が行われました。

ご来賓の方々からご丁寧なご祝辞、貴重なお話、激励の温かいお言葉をいただき、誠に有難うございました。トレデュニオン編集にあたり、会場それぞれの皆様から伺ったお話を元に、創立当初苦労された思い出の事柄、FHA に対して将来の期待、現役シューフィッターとしてお客様に感謝された事例、反省など、日頃ご活躍されている声をまとめてみましたので、歓談の写真と共にご覧ください。

司会進行 木村克敏 (FHA 事務局長)

式次第

- 開 会 矢代 裕夫 (FHA 顧問) 50 周年記念祝賀会開催委員長
- 一、ご祝辞 渡邊 政嘉 様 (経済産業省 紙業服飾品課 課長)
- 一、ご祝辞 岩崎 幸次郎 様 (日本皮革産業連合会 会長)
- 乾 杯 佐藤 重基 (FHA 副会長)
- 一、ご祝辞 福井 利三 様 (合名会社 福井靴木型製作所 社長)
- 一、ご祝辞 遠藤 三郎 様 (バレリアンシューズ 株式会社 社長)
- 閉 会 印南 淳 (FHA 会長)



矢代 裕夫



渡邊 政嘉 様



岩崎 幸次郎 様



佐藤 重基



福井 利三 様



遠藤 三郎 様



印南 淳

祝電披露

- 一、猪山 渡 様 (株式会社 ムーンスター 代表取締役社長)
- 一、霜田 清 様 (株式会社 シューマート 代表取締役)

沿革

歴代会長



村田 金一
IWF
1965年（昭和40年）8月～
1969年（昭和44年）7月
株式会社 キャッスル共同 社長



佐宗 慶吾
JIF
1969年（昭和44年）8月～
1997年（平成9年）3月
株式会社 平和堂靴専門店 社長



西 法正
FHA
1997年（平成9年）4月～
2001年（平成13年）4月
国立病院東京災害医療センター 名誉院長



吉野 勝利
FHA
2001年（平成13年）5月～
2007年（平成19年）4月
有限会社 ヤコブベーメ 社長



後藤 弘吉
FHA
2007年（平成19年）5月～
2011年（平成23年）4月
ゴトウ靴店 店主



印南 淳
FHA
2011年（平成23年）5月～
ダイナス製靴 株式会社 取締役 相談室担当

1965年（昭和40年）

日本婦人靴研究会
（Japan Institute of Womens Footwear、
略称 IWF）設立

1969年（昭和44年）8月

日本靴総合研究会
（Japan Institute of Footwear、略称 JIF）へ改組

1974年（昭和49年）

日本人初の足型データを業界に発表、
成人男女各1,000名の足型計測実施

1984年（昭和59年）11月

シューフィッター養成講座
（後のプライマリーコース）開講

1988年（昭和63年）10月

シューフィッター養成講座
（バチェラーコース）開講

1991年（平成3年）11月

シューフィッター養成講座
（マスターコース）開講

1997年（平成9年）4月

足と靴と健康協議会
（Foot, Footwear and Health Association、
略称 FHA）へ改組

2000年（平成12年）～2001年（平成13年）

経済産業省委託事業
革靴販売と生産の方法実態調査

2008年（平成20年）～2011年（平成23年）

日本皮革産業連合会
「足サイズ計測事業」に協力
19歳以上男女2,400名の足型計測実施（報告書2009年）
4歳～18歳男女3,400名の足型計測実施（報告書2013年）

2009年（平成21年）6月

一般社団法人 足と靴と健康協議会
（略称 FHA）へ改組

2009年（平成21年）12月

幼児子ども専門コース開講

2013年（平成25年）3月

シニア専門コース開講

2014年（平成26年）4月

日本靴小売商連盟より
シューフィッター養成講座受託

50年の歩み、設立当初を振り返る

日本婦人靴研究会 (IWF)

1965年6月、浅草のボンソワールにおいて、加藤、佐宗、福原、田村、中西、渡辺により、設立前の第1回会合が開催された。創立の発起人代表は事務局 加藤一雄氏。

- 会合要旨（目的は消費者に良い婦人靴を提供する事）
- ・現在の婦人靴を、履き心地第一の考えを入れて改良する為に。
 - ・婦人靴業界にはMFU（紳士服飾研究会）のような団体が無い為、各服飾部門へ働きかけを行う。
 - ・婦人服のトレンドに沿ったシーズンの打ち出しをはかる為に。

- ・意欲的な有志を靴業界中心に各部門から募り、婦人靴を良くする研究に取り組む。
- ・東京都靴連盟の支持を得る。

その後、設立準備委員会を立ち上げ、東京都靴連盟、皮革流行色研究会、MFU 靴部会、子供靴研究会など各団体から活動の協賛を得る。

「設立総会」1965年8月20日、浅草、皮革会館4階にて開催。

靴関連業者（靴型・皮革・資材・紳士/婦人/子供メーカー・問屋・小売）、及び服飾関連の方々が集まる。設立はニュースとしてメディア各誌に取り上げられた。

日本靴総合研究会 (JIF)

1969年8月、IWFから改組。婦人靴に限定せず、ゴム履物、スポーツシューズなどを含めシューズ全般に広げた活動となった。翌年サイズ委員会を設け、成人男女各1,000人の足型採寸の準備に着手。中尾喜保（東京藝術大学美術解剖学教授）先生をリーダーに足の解剖学、生体学から学習を受ける。足型計測法が整うまで約2年を要した。

1974年日本初の足型データとして業界に発表。

その後、日本の消費者へのシューフィッティングサービスの必要性から「靴人間工学」の集中講義を、中尾先生に再びお願いする。JIF会員15名によるフィッティング研修会は他の専門知識も修得しながら12年間続いた。1984年11月シューフィッター養成講座の開講は、中尾先生を始め研修会の成果に基づいている。



1984年8月22日ホテル高輪（養成講座開講前の慰労会）
中尾喜保先生（2列目左から2人目）、
加藤一雄氏（前列左）、宮永美知代先生（前列左から2人目）



2000年10月26日ホテルトップ浅草（J・ヒックス先生お別れ会）
加藤一雄氏（前列左から3人目）、J・ヒックス先生（前列中央）、
小崎照尚氏（前列右から3人目）

中尾先生が設立当初から言われていた言葉「足と靴の研究に取りかかったら、底なし沼に足を突っ込んだようなもの」

50年の間、23年間がJIF時代であり一番長期である。正会員数78社。会長は平和堂靴専門店の佐宗慶吾氏、事務局長は加藤一雄氏。沢山の新たな活動が行われたが、プライマリー養成講座は今年2月大阪開催で通算182回（FHA改組後113回）となった。受講者数は11,000名を超える。2016年2月現在シューフィッター認定者数3,512名。バッチャー養成講座は1998年第1回が開講。小崎照尚氏の紹介から英国よりジョン・ヒックス先生

を講師として招聘、すべての指示を仰いだ。今年度で通算25回（FHA改組後15回）の開催、現在1年コースで毎年開催されている。（J・ヒックス氏2004年逝去）

マスター養成講座は、中尾喜保先生に主任講師を受けていただき、第1回は1991年から2年コースで開催したが、中尾先生の体調不良から、その後は開催されていない。（中尾喜保氏2002年逝去）

加藤 一雄 氏（初代専務理事）をしのぶ（俣野主任研究員インタビュー）

- ・日本婦人靴研究会は加藤一雄氏が発起人。後日、山本宏氏が事務局長として入職。
- ・加藤氏と気のあった、靴について研究熱心な人達が集まって創立の話が進んだと思う。加藤氏は以前は靴業界誌の記者だったようだ。



- ・当時、収入は会員企業からの会費がほとんどであったから、決算は赤字続きで職員の給料を払うにも困り、理事の有志からお金を借りてしのぐような金銭的には不安定で苦しい時代だったと聞いている。
 - ・シューフィッター事業は安定した収入を得ることが出来、やっと息をつけるようになったようだ。
 - ・平和堂の故 佐宗慶吾氏、故 中尾喜保先生、故 大塚斌氏をはじめ数え切れない方々から後押しされたように業界、消費者の為を思う人、真面目で人望があった方でしたね。
- （加藤一雄氏 2008 年逝去）



写真左から、福原 一郎 氏、俣野 好弘、加藤 彰一 氏、福井 利三 氏

50th anniversary

祝賀会風景 & インタビュー

歓談中、盛り上がっている最中にインタビュー。
シューフィッターの皆様からのコメントを記載しました。
質問は3つで以下の内容です。

- ①シューフィッターになって良かったこと
- ②シューフィッターとして目標
- ③ FHA、業界に期待すること

大沼 義明 様

- ①お客様に目の前で喜んでもらえる事が一番の幸せ。
- ②日本の靴文化を土浦から変える事。
- ③これまで業界のいろんな方々のお世話になってここまで来た。期待するのではなく、これからは私が業界に恩返ししていきたい。

柏 拓哉 様

- ①お褒めの言葉をいただく回数が増えた。
- ②フィッティングを通じて1足でも多くの靴を販売する事。
- ③シューフィッター全体のボトムアップ。



今井 亮 様

- ①横の繋がりができた事。特にバachelor同期との繋がりは自分にとって最も良かった事。
- ②ランニングブームで走っている人が増えているが、そういった人への足と靴への興味喚起。
- ③足の細い子供が増えているが、業界がそこに対応しきれていない。業界を上げて子ども靴のサイズバリエーション対応を。



澤田かおる様

- ①お客様の信頼を得られる。
- ②まだまだ自分を高めていきたい。
- ③もっとシューフィッターを増やして欲しい。

藤井恵様

- ①お客様の信頼度が上がった。勉強していく中でファッション靴の理解も深まった。
- ②もっともっとお客様の足に靴をより良く合わせられるようになりたい。
- ③お客様が本当に求めている物をメーカーに作って欲しい。



山本直様

- ①いろんな方に出逢えた事。
- ②靴の仕事から離れているので、仕事外でシューフィッターとしての繋がりを取っていきたい。
- ③FHAには流通業界でのスーパーバイザー的な立ち位置を明確にして欲しい。

大高成様

- ①お客様の全てのご要望にお応えして喜んでもらい笑顔を見る事が最高の喜び。
- ②シューフィッターとしての集大成として卒論を制作中。
- ③ペドカルテの読み方、活用方法を教えるカリキュラムの進化。

頼住博之様

- ①お客様に喜ばれる事が一番嬉しい。
- ②よりお客様に喜んでいただけるようにしたい。
- ③靴は大量生産のために平均値で作られているが、メーカーにはイレギュラーに対応できるように様々なパターンの靴を作って欲しい。

小菌恵子様

- ①「ぴったりの靴を選んでくれてありがとう」とお客様に言われた事。
- ②お客様のご要望を聞いたうえでさらなるフィッティング技術の向上。
- ③業界全体がひとつにまとまれるように協力して欲しい。



関口紘美様

- ①靴の知識が深まったので自分や周りの方の靴選びで喜んでもらえる。
- ②靴は奥深いので、もっと勉強して皆様に喜んでもらえるようなシューフィッティングをする事。
- ③日本人は靴に対する知識が浅いので、靴に対する興味が湧くように尽力して欲しい。

林美樹様

- ①お客様に「あなたのおかげ」と喜ばれる事。
- ②日本人に足と靴の大切さを広めたい。
- ③シューフィッターが一般消費者に信用されきっていない。「シューフィッターって凄いね」って言われる世の中に。

大持賢二様

- ①基本がスキルアップできた。日本中の靴関係の仲間と知り合いになって切磋琢磨できる事。
- ②新店オープンに向けて、新しいお店に見合う力をつけていきたい。
- ③消費者が自分に合った靴には、それに見合う対価を払うような世の中を作って欲しい。

藤川翔太様

- ①子ども靴担当なので選んであげたお子様のお母さんに喜んでもらえるのが嬉しい。
- ②お客様に安心してもらうために自信をつけて堂々とできるようにもっと勉強したい。
- ③足の細い子どもが増えてきているので、もっと細い型の子どもの靴のバリエーションを増やして欲しい。

**岩瀬和幸様**

- ①靴が好きの人と出会えて、そんな人たちと前向きな話ができる事。
- ②店頭立つ機会を増やすこと。そして高齢者の方々に「出掛けてみたいな」と思ってくれる靴を提供する事。
- ③正しいフィッティングをしていきたいので業界全体で取り組んで欲しい。

田中康之様

- ①「あなたから買いたい」と言われた事。
- ②後進を育てる。
- ③小売、製造、いろんなところを巻き込んでのコラボレーション。

**武田剛様**

- ①お客様に喜ばれる事。
- ②シューフィッターの楽しさを皆に伝えていきたい。
- ③もっと横の繋がりを多くしてより良い業界にして欲しい。

野村美香様

- ①自信を持って靴をお客様にお勧めする事が出来るようになったこと。
- ②お客様に喜んでもらえる接客をどんどんする事。後輩を育てていくこと。
- ③一般消費者向けの公開講座を開いて欲しい。

倉富美紀様

- ①全国に同じ目的を持った良い友達ができる。
- ②指導員としての腕を上げたい。
- ③FHA 監修の靴をメーカーさんに作って欲しい。

**外川秀俊様**

- ①また来たいと言われた。
- ②もっとお客様に喜ばれるように、とことん尽くせるようになりたい。
- ③お客様がもっと喜ばれるような靴を業界全体で作って欲しい。

石原智光様

- ①パッチャー同期の才能溢れる仲間たちと出会えたこと。
- ②仲間たちと共にさらに頑張っていきたい。
- ③シューフィッターの認知度を高めて、子ども達にもっと合った靴を履かせたい。

武明美様

- ①自分と同じ価値観の友達が増えた。
- ②お子様の足と見ているので、そこをスキルアップしていきたい。
- ③皆さん元気なので、私よりももっと頑張っ欲しい。

佐々木恵様

- ①数年前に接客したお客様が自分の子どもを連れて、自分目当てに再来店してくれた時。
- ②今の職場の立場を活かし、ご自宅に訪問して、お履き靴の調整をして差し上げるシューフィッター。
- ③今後、継続的に発展し続けて欲しい。



管野博久様

- ①だんだんお客様に喜ばれるようになってきた。
- ②この世界にドップリ浸かってしまったのでここで頑張っしていきたい。
- ③一人でも多くの子どもの足を救いたい。

永田聖子様

- ①接客したお客様が後日、自分の事を覚えていてくれて笑顔で声を掛けてくれた時。
- ②靴と身体のパイプ役のシューフィッターとして、靴だけでなく身体の使い方の啓蒙をしたい。
- ③もっとテレビ等のメディアを活用して、足と靴の大切さを啓蒙して欲しい。



佐野生子様

- ①日々悩みながらフィッティングが上手になりたいと思っています。
- ②マスターを取って、フィッティング、ラストの理解をさらに深めたい。
- ③皆でボトムアップしてシューフィッターのレベルアップ。FHAにはおもてなしの心を持って欲しい。

阪田茂宏様

- ①靴屋として認められた事。
- ②足靴業界全体を巻き込んでシューフィッターをより広めていきたい。
- ③MADE IN JAPANをもっと高めていただきたい。



日原健一様

- ①外反母趾でお悩みの方に痛み無しで旅行に行ける靴をご提供できた事。
- ②シューフィッターの知識を振り回すのではなく、お客様の気持ちに寄り添って喜んでもらえる接客を高める。
- ③業界では無く、自分がやる事、やれる事をやっていく。

召田憲司様

- ①同じ意識を持つ仲間たちとの輪が広がった事。
- ②足でお悩みの方に少しでも痛みの和らぐ靴を提供して喜んでもらう事。
- ③この世界は日進月歩で新しい事が出てくるので、FHAでそれを取り入れて勉強させて欲しい。

増田 京子様

- ①自分のライフワーク、目標ができた。
- ②靴売場に戻って現場で活躍したい。
- ③今のアットホームな雰囲気でのFHAをこれからも継続して欲しい。

大木 金次様

- ①お客様に喜んでもらえる事。
- ②足に合った子どもの靴を世の中に浸透させたい。
- ③メーカーさんがこういった会合にもっと出てきて欲しい。

川口 由佳様

- ①自分に責任を持って、お客様とそして仕事と向き合えるようになった。
- ②子ども靴シューフィッターとして「あの人に選んでもらいたい」と言われるようになりたい。
- ③子どもの靴環境が良くなるようにして欲しい。



吉田 友則様

- ①お客様に感謝される事。
- ②顧客を増やすこと。 ③シューフィッターを増やして欲しい。



橋本 伸也様

- ①仲間ができた事。
- ②今の状況を継続していく事。
- ③子どもの学校の履きを何とかして欲しい。

青木 美喜様

- ①足について深く知る事ができた事。
- ②もっと勉強して知識を深めていきたい。
- ③標準規格を統一して欲しい。

大濱 久雄様

- ①お客様のお悩みを解決できるようになって喜ばれるようになった事。
- ②バッチラーを取って靴職人になる事。
- ③日本は靴文化が浅いのもっと広めて欲しい。



当日 皆様へのお渡し品

- ・ 50年のあゆみ
- ・ Shoe Fitter FHA オリジナルピンバッジ
- ・ 書籍「シューフィッターの小さな奇跡」



Shoe Fitter ピンバッジは SFC 会員全員に「トレデュニオン Vol. 51」に同封してお送りいたします。
今後、新たに SFC 会員になられる皆様にもお渡しいたします。

子どもの足の成長とフィッティング

2015年12月9日(水)、東京蔵前・皮革年金会館に於いて、くっく知多店の永井恵子氏と(株)ムーンスターより井村学、光吉明両氏をお招きして「子どもの足の成長とフィッティング」と題し、販売する立場ともつくりする立場から講演が行われました。永井恵子氏は、現役の販売員として店頭に立ち日々お客様の対応をする中、子供の足の健康を考えるNPO法人WISHの代表を勤め、子供靴の大切さを広める啓蒙活動を精力的にされています。

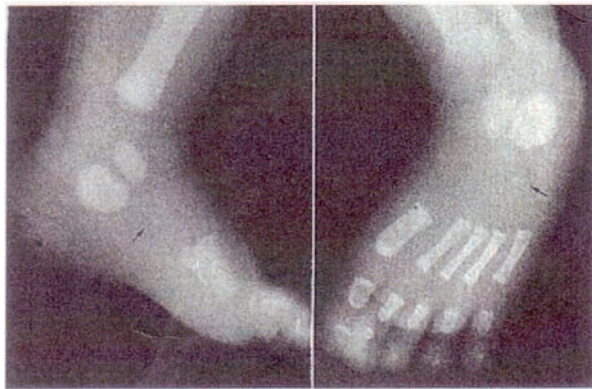
報告者 SFC 東日本支部長 武田 剛

現場から見た子どもの足と靴選び

講師 永井 恵子 (NPO 法人「WISH」代表)

子供の足の成長

人の足は26個の骨から出来ています。しかし、子供の足にはまだ26個の骨は揃っておらず、多くの軟骨成分によって構成されています。そのため、子供の足は非常に可塑性に富んでいます。



新生児の足

2歳くらいになると小さな骨の芽である骨芽が現れてきます。6歳頃では26個の骨の原型となる形が出来上がってきます。13歳頃では26個の骨の出来上がる位置が明確になってきます。これらの一連の流れを骨化と言い、15～16歳で終了を迎えます。

足の大切な機能としてアーチ構造が上げられますが、これらを形作っている舟状骨、第一、

第二、第三楔状骨は4年をかけて形作られてきます。ちょうど幼稚園に入る時期になりますので、この年代に着用する靴は特に重要な意味を持ってきます。

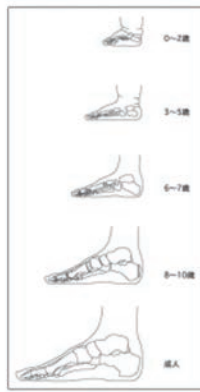
ひとつ足の可塑性の高さを表す例があります。それがかつて中国で行われていた纏足(てんそく)という慣習です。かつて中国では足の小さなことが美人の条件とされていたため、幼少の頃から女の子は足を包帯でぐるぐる巻きにされ大きくならないように縛られるということをしていました。そうすることで足は大人になっても底面が10cm程度の大きさにしかならなかったということです。これらのことから子供の足は良い方にも悪い方にも変化しやすいものだということが分かります。

0歳から3歳頃までは脂肪層の多い足ですが、4歳頃からは運動が激しくなり5歳頃には足根骨の骨化がすすみ、あおり運動が見られるようになってきます。筋肉がついてくる7歳頃からアーチの形成期となります。小学校の低学年の頃が一番アーチ形成率の高い時期となります。9歳頃には更に運動が激しくなり極小化といい幅は同じだけれど長さだけが大きくなるといった現象が見られるようになります。その後15歳頃に骨化が終了し、25歳頃にすべての歩行に関する成長が完了することになると言われています。

足部の成長



靴の足長サイズ
4歳—16cm・5歳—17cm・6歳—18cm



右内側面

以上の子供の足の変化を頭に入れておき、店頭ではお客様に対して今お子様が何歳なのか、どれくらいの運動が出来るのかを判断しなければなりません。そしてそのレベルによってどのような靴をお勧めしていくかを決定していくのです。

年齢・運動とその子供が履く靴は連動していきます。小さなお子様でも運動レベルが高ければ少し上の年齢のお子様履くような機能性の靴をお勧めすることになります。お子様の運動能力に合わせた靴選びが非常に重要になってきます。

成人になった時、耳、肩峰、大転子、膝関節、外踝の位置が直線になるように立つことは健康な成長にとっても大切です。これを獲得するためには、子供のときにアーチ、あおり歩行を獲得することが重要になります。そのために、靴が大きく関わっていることを認識しておく必要があります。

子供の足を見ていくと、左右差、アーチの有無、浮き趾などがみられバランスを崩していることが多くあります、これらを修正しバランスをとれる体に成長することが大切です、そのために靴選びや履き方が重要になってきます。

靴選び

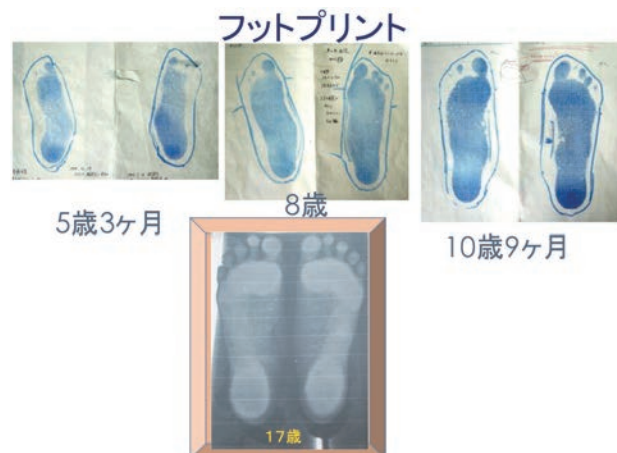
まずは足を測ります。フットゲージを使うのが一般的ですが、今では3Dの計測器なども普及してきています。足長、足囲、足幅を測るのが基本となります。

爪先の形も重要です。エジプト、ギリシャ、スクエアと分けられますが、その形によっても合う靴は違ってきます。販売員は爪先形状をしっかりと判断する必要があります。子供の爪先は幅の広さに関係なく扇型に広がっています。しかし幅の細いナローな靴の中には爪先まで細くなっているものがあります。足幅は細くても爪先はあくまで扇型になっていなければなりません。つま先のチェックは重要ですのでしっかりと判断しましょう。

捨て寸は年齢や足のサイズによって異なります。色々な資料に具体的な数値が書かれています。それらを集計して調べてみると、平均的には足長の5%で考えていいと思います。

いい靴のポイントはず、紐か面テープ（マジック）で必ず甲部が固定できることです。そして踵の部分、カウンターがしっかりとしていることです。また、ソールに関してはMPの位置で屈曲することです。インソールは装着されているほうが好ましいですし、爪先の形状は扇形であることも重要なポイントです。

フィッティングに関しては、足型形状を観察し、捨て寸が取れているかをチェックします。第一趾高も当たらないことをチェックします。これらからも分かりますが基本的に前足部はブカブカな感じですが、一方で踵はキチンと固定します。靴は後足部で履きます。踵トントンで靴を合わせます。爪先トントンは絶対ダメです。



子供の足にもトラブルはたくさんあります。胼胝や疣といった皮膚の病気や、外反母趾や内反小趾で痛みを訴える子供さんもいらっしゃいます。

ます。浮き趾やハンマートーなども多いです。その中でも一番重要視しているのは外反扁平足です。外反扁平足とは、3歳ごろからアーチ形成が始まり踵骨がまっすぐになってくるべきなのですが倒れたままの状態のことです。アーチ形成期にサイズが合っていない靴を履いたり、おもちゃのような靴を履いたりすることで問題がおこりアーチ形成が正常に起こらない要因になることがあります。外反扁平足のチェックにはフットプリントなどを使用することが一般的です。外反扁平足の方の踵骨は小さいことが多いです。それは踵骨が倒れていることで踵部に体重がしっかりかからず負荷が弱いためしっかり成長しなかったことが疑われます。骨の成長にはカルシウムなどの栄養素に加えちゃんと負荷を与えることが必要なのです。

正しく歩く 正しく歩くことが集中力を育てる



脳の発達と歩くことには関連がある。

1歳児の教育は歩くことといわれています。

脳のなかの前頭前野という部分は低年齢のときに一番発達する部分です。前頭前野を発達させるには歩くことが重要です。正しいあおり歩行が脳細胞を増やすことにつながります。

脳の成長は5歳で90%程度発達するそうです。この時期に脳を発達させることで基本的な脳の能力を高めることが出来ます。これらのことから、靴選びを正しくすることで正しいあおり歩行を可能にし、脳の発達にいい影響を与えということがいえます。足から脳に直接影響を与えるということです。

子供の靴の中では、上履きも重要な履物です。現状販売されている上履きは止め具のゴムが機能しておらず、カウンターが柔らかすぎるものが多く出回っています。

上履きの機能性向上のための実験として、硬いカウンターと面テープベルト（マジックテープ）を付けた物、面テープベルト（マジックテープ）だけを付けた物、硬いカウンターのみを付けた物それぞれを着用させて450人の子供に幅跳び、10m走、5m歩行の3つの種目で計測を実施しました。結果として一番優位性を表したのは、硬いカウンターと面テープベルト（マジックテープ）の両方を着けた上履きでした。

次に良い計測結果が出たのが面テープベルト（マジックテープ）を着けた上履きではなく、硬いカウンターを着けた上履きでした。

これらの結果から、カウンターがどれだけ足と靴の関係で重要か理解していただけたと思います。

靴を選ぶ際、日本での重要性はデザインやキャラクターが上位に上がります、一方で靴の先進国といわれるドイツでは機能性が最上位です。買う場所も、日本がスーパーや量販店で買われる方が多い一方で、ドイツではきちんとした販売員がいる専門店で購入する方が一般的です。

お客様が正しい靴を求めようになれば、メーカーもいい靴を開発することに力を入れるようになる。そうすればいい循環が生まれてくることになる。この循環を生むにはシューフィッターの活躍が重要になってきます。

シューフィッターとして啓発活動も大切にしていきましょう。

メーカーから見た子どもの足と靴

講師 井村 学 (株式会社ムーンスター マーケティング課)
光吉 明 (株式会社ムーンスター マーケティング課)

子供の足の現状

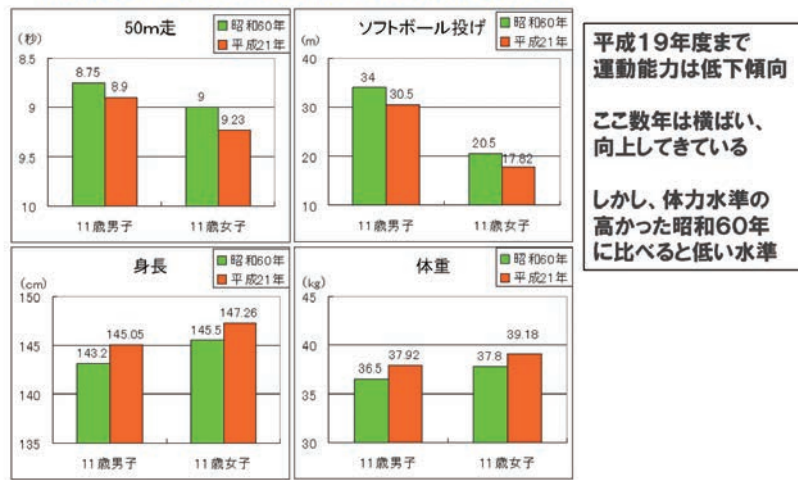
I 子どもの足の現状



※文部科学省のデータより抜粋

1. 運動能力と体格

昭和60年(1985年)と平成21年(2009年)の比較



子供の運動能力と体格の動向をしてみる。

文部科学省のデータを見てみると、50m走、ソフトボール投げなどの運動能力の項目では平成19年まで低下傾向が続いている。ここ数年は横ばい、または向上してきている。しかしながら、体力水準の高かった昭和60年と比較するとまだまだ低い水準であることに間違いは無い。

一方で体格に関しては身長、体重ともよくなっている。やはり、食生活の改善・変化が大きな要因となっている。これらの変化とともに当然、子供の足にも変化が起こってきている。

ムーンスターが定期的実施している子供の足型調査においても、外反母趾が見られるようになってきている。

やはり、子供の靴もファッション性が重視され、足にあっていない靴を履いていることが要因の一つと考えられる。また、近年ではお子様

がサッカーなどの競技系シューズを履く機会が増えてきている。競技系シューズはきつめに合わすことが多く、日常使いとの区別無くシューズを履くことも外反母趾などのトラブルの要因と考えられる。

ムーンスターが蓄積しているフットプリントを見てみると昭和58年当時の子供のフットプリントは趾もしっかりとプリントされており土踏まずもくっきりと現れている、しかし平成18年の子供のフットプリントでは趾が写っていないプリントや土踏まずのない扁平足のプリントが多く見られるようになってきている。

また、踵の外反を起こしているお子様も多く見られるようになってきています。これらの変化は運動不足のほかに、サイズが合わない靴や靴の履き方が正しくないことなど靴を要因としていることも多い。

I 子どもの足の現状



2. 足形の変化 ～浮き趾・扁平足～

昭和58年（1983年）と平成18年（2006年）の比較



I 子どもの足の現状



2. 足形の変化 ～外反足～

※久留米市内某小学校の1年生、3年生を調査



踵がゆがんでいる子どもの増加
運動不足、サイズが合わない靴、履き方が正しくないなど

子供の靴に必要な機能

子供靴の役目とは、

- ①足の健全な成長を妨げないこと。
- ②足を保護すること。
- ③運動性を確保、助長すること。

子供靴に必要な機能は、

- ①子供の足に合った靴型。
- ②子供の足を固定するホールド性。
- ③子供の足にあわせた屈曲性。
- ④つまずきや滑りを防ぐ安全性。
- ⑤子供の衛生面を考えた清潔性。

子供の靴に必要な機能として、まずは子供の足に合った靴型であることである。爪先形状は扇形であること、また厚みも重要で趾を動かすことにストレスを与えない厚みが必要である。つまり、爪先にゆとりを持たせ、指を圧迫せずのびのび動かせる形状が重要である。

また、爪先ゆとりの一方で、高いホールド性が必要である。面ファスナーや紐でウエスト部を固定する構造が必要となってくる。ホールド性のもう一つのポイントは踵のカウンターである。子供は筋肉が未発達であるため踵をホールドできるカウンター構造が必要である。

屈曲性も大切な機能である。ボールジョイントの位置と同じポイントで靴が曲ることが重要である。

安全性も必要である。安全性を確保するためにはまず、トースプリングがあることである。トースプリングをつけることでつまずき予防となる。また底の滑りにくさも安全性を高める。マンホールなどの平滑な面でも安全に歩行できるような防滑性に優れた底材が重要である。

そして最後に必要な機能として清潔性である。単位面積当たりの汗腺数は子供のほうが大人より多い。また、汗をかく量も多く雑菌の繁殖しやすい環境にある。そのため、靴には清潔を保つため、取り出して洗えるインソールが必要である。

メーカーとして一番大切にしているのが靴型(ラスト)である。これがなければ靴は作れない。靴型の役割は、足に対するフィット性・履き心地を決定し、靴のスタイルを決める。また、靴作りの土台ともなる。

靴型には捨て寸が設定されている。捨て寸とは歩行などの動きにおいて、靴の中で爪先が内壁に当たらないように一定寸法を加えることである。捨て寸の設定に関しては、年齢や靴の使用目的、使用材料で異なってくる。

靴型には締め率が設定されている。締め率とは足と靴とをフィットさせるためにそのサイズの実寸にたいしてある一定の割合で絞る率のことである。年齢や靴のタイプによって異なるがボールガースの周囲寸法に対して数ミリ引く、または足すように設計する。

メーカーや使用目的により締め率は大きく異なる。またパンプスなどはヒールの高さによっても締め率は異なる。子供靴においてベビーやインファントでは、逆に締め率はプラスとなり、実寸にたいして数ミリプラスして設計している。

※年齢区分 (FHA 呼称)

ベビー	0～1歳未満
インファント	1～3歳
チャイルド	4～6歳
ジュニア	7～12歳未満

靴の選び方に関して

重要なのは成長に合わせて靴を選ぶこと。ベビースューズでは本格的な歩きをまだ行わないので、足の保護を目的としたものになる。その為重要なのは通気性のあるソフトな素材を使用していることである。

インファントシューズになると歩く時間が長くなっていくので歩行をサポートする機能が重要となる。甲の部分で固定でき、屈曲性が良く、踵がしっかりとしていることが重要。また、クッション性や防滑性もポイントとなる。

さらに、チャイルドシューズとなるとアーチの形成期に入り、複雑な動きが増えてくるのでインファントシューズよりもさらにクッション性や趾の動きを妨げないフィッティングなどが重要となってくる。



永井 恵子 (ながい けいこ)

NPO 法人 WISH 代表
FHA 認定バチエラー (上級) シューフィッター
新潟医療福祉大学後期博士課程
くっく知多店チーフ



井村 学 (いむら まなぶ)

株式会社ムーンスター
東京本社 マーケティング課
FHA 認定シューフィッター



光吉 明 (みつよし あきら)

株式会社ムーンスター
東京本社 マーケティング課

(株) アサヒコーポレーション工場見学

2015年11月5(木) 福岡県久留米市の(株)アサヒコーポレーションを訪問。「靴を通じた健康づくり」をキーワードに靴製造を行っている当社の工場と歴史資料館の見学、また「足と靴と健康〜子どもから大人へ〜」と題した講演会を開催いたしました。

報告者 SFC 西日本支部長 野村 美香

株式会社 アサヒコーポレーション

(代表取締役社長：佐藤 栄一郎) 〒830-8629 福岡県久留米市洗町一番地
TEL：0942-37-1020 (代表) FAX：0942-33-0780 HP：<http://www.asahi-shoes.co.jp/>



アサヒコーポレーション

1892年仕立物業「志まや」(足袋を生産)創業以来、足袋にゴムの底を付けた地下足袋生産を含め、120年以上の伝統から培った製靴技術を継承するアサヒコーポレーション久留米工場見学。



時代を感じさせる手動開閉のエレベーターで講堂に入り2班に分かれて工場を巡ります。



ムーンスター



ブリヂストン

久留米はゴム加工品メーカーの工場が多く存在しています(アサヒコーポレーション、ムーンスター、ブリヂストン)

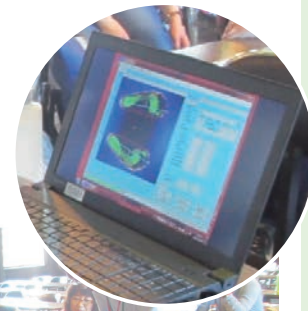


工場で使用する接着剤は自社で作成するなど、安全、安心、高品質の「日本製」へのこだわりが見えました。

歴史資料館では創業当時の足袋や懐かしいアイドルのシューズ、ポスターを見学。



昼食後、希望者はフットグラファーで足型測定。



午後からは「足と靴と健康～子どもから大人へ～」と題し、講演。

まずはアサヒ健康くん・学販グループ古賀稔健氏より、子どもの足と靴について聴講。商品開発の経緯を実体験を交えて商品を見ながらお話いただきました。



二人のお子様の足を年3回測定。アサヒキャラバン隊を発足し、各地で足型測定や、蓄積されたデータからの靴選びのアドバイスをします。

靴の先進国ドイツでは子ども手帳が配布され、5歳になるまで年9回の足や脚に関する検査が行われますが、残念なことに日本にはそのような検査がない。

「ドイツの子ども手帳」



当社では、子どもの足を守るために「足・子ども手帳」という足のガイドブックを作り、成長の過程を知り、計測結果を靴選びに結びつけています。



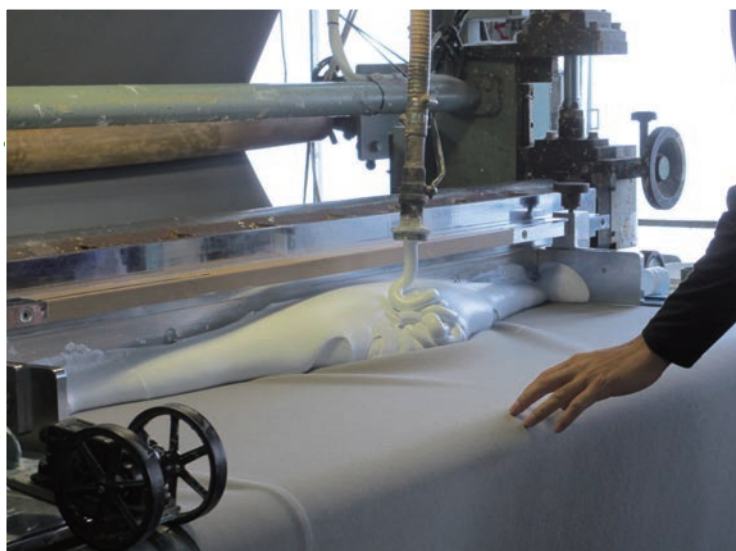
約20万人のデータを蓄積し今の子どもたちの足のバランスを考えてラストを製作。製品に反映しています。正しい靴の履き方をお母様方、先生方から啓蒙し子どもたちに履いてもらうことが必要。啓蒙を地道に続けていくことが大切だと感じました。

続いて、アサヒメディカルワークグループの塚本裕二氏より、靴による社会貢献について聴講。

工場見学



接着剤製造工場



原反貼合用接着剤



福祉の経験からシルバー世代をターゲットとしたブランドの開発。足のデータの必要性から計測機フットグラファァの開発。たくさんのお客様の声を聞いて、膝のトラブルを予防する商品の開発から市場創造。これからは激増する糖尿病性足病変にも注目が必要。「私たちは靴を通じて日本の健康づくりに貢献します」という企業理念を忠実に実行し社会にフィードバックしています。

商品企画、販売部門に携わるお二人にお話を伺い、ベビーからシルバーまで足と靴に深く熱い思いを感じました。老化は足からといわれますが、子どものころから鍛えて大切にすることを啓蒙していくこともシューフィッターの役目だと思いました。

工場見学についてはシューフィッター養成講座プライマリーコーステキスト「靴の製法と特徴」を見ながら復習しましょう。



ゴム生地混練り



長靴用インジェクション成型機



ゴム底用金型



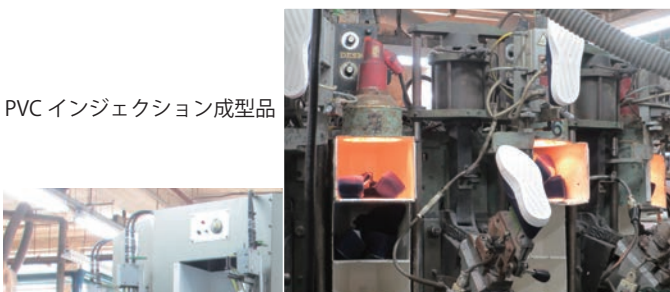
アップターの縫製



PU インジェクション製法の底付



PU インジェクション製法機全景



PVC インジェクション成型品



PVC インジェクション成型機



加硫の窯に入る前 (バルカナイズ製法)



● 第7回幼児子ども専門コース合格者一覧 (2016年1月1日認定)



氏名	会社名
細谷 創	HARU shoe studio
佐藤 亮	アキレス
野村 美香	ジェイアール東海高島屋
藤川 翔太	SHOES STAGE
川井 佐江子	文化服装学院
兵藤 まいか	静岡伊勢丹 子供靴売場
新井 とく子	チヨダシュープラザ三鷹かえで通り店
清水 康弘	シューマート
山口 久美子	チヨダシューズパレット西葛西店

氏名	会社名
福島 貴志	シューマート 足利店
和田 梓	丸井 錦糸町店
松下 佐知子	東急百貨店 吉祥寺店
伊藤 修	ラッキーベル
渡辺 晋仁	ファミリーコーポレーション
小室 麻佑美	チヨダ SPC 新浦安ショッパズプラザ店
黒田 みさ子	東急百貨店 吉祥寺店
池田 悠里	阪急阪神百貨店 博多阪急

氏名	会社名
松本 玲子	そごう・西武 西武船橋店
荻野 雅司	靴のキングダム
島田 和敏	フットメモリー しまだ
比嘉 沙織	ジーフット
大濱 久雄	ジーフット アスビー横浜店
田中 賀代	ジェイアール東海高島屋
塚田 英美子	コロンプス
都築 雅美	東急百貨店 吉祥寺店

(受講して) お客様が大人の場合、靴のどこが痛いか合わないかなど反応があり、納得させてお買い上げいただくのが流れです。しかし、お客様が幼児の場合、何が合っているのか、どこが痛いのか本人は分からないですし、靴が合っているかどうかもうまく伝えることができません。よって靴をお勧めする側のシューフィッターの責任は重大です。

その事を改めて気づくことができ、今講座で幼児・子どもの靴の事、足の事、足の成長と発達、予防医学など学んだことをしっかり身に付けることで子ども達の足がトラブルなく快適に、また健康に育つ靴選びに役に立てていきたいと思っております。

HARU Shoe Studio 細谷 創

● 第16回バッチラー(上級)コース申込み受付中

2016年7月～2017年3月 スクーリング3日間(会場:東京)×3回(7、11、3月) 受講料:260,000円(税抜)
1回目:7月13日(水)～15日(金) 2回目:11月9日(水)～11日(金) 3回目:3月15日(水)～17日(金)



パッキングワーク/講師:阿部 薫



シューフィッティング/講師:召田 憲司



足型計測/講師:青木 淳

● 第5回シニア専門コース申込み受付中

2016年10月6日(木)、7日(金) 2日間コース 会場:東京 受講料:66,000円(税抜)

● 第8回幼児子ども専門コース申込み受付中

2016年12月7日(水)、8日(木) 2日間コース 会場:東京 受講料:66,000円(税抜)

※足や靴に関する講演会、計測会等のシューフィッターとしての活動は事務局までご連絡ください。当会HP「シューフィッター活動報告」に掲載いたします。
※勤務先や自宅住所等の変更が生じた時は必ず事務局までご連絡ください。連絡が無い場合はトレデュニオンや補習講座の案内等をお届けできなくなる事があります。

HP 会員専用パスワード: kmhs7646

表紙デザイン:株式会社ジャルフィック 池田 正晴

○・・・トレデュニオン・・・○

“トレデュニオン”は、フランス語です。英語では Hyphen (ハイフン) にあたります。FHA 事業理念をもとに FHA 会員、SF、SFC 会員の相互を密接に結ぶ情報誌という意味で命名しました。

VOL. 51 (通算 86 号) 2016 年 4 月 1 日 発行
〈編集・発行〉一般社団法人 足と靴と健康協議会
〒111-0032 東京都台東区浅草 7-1-9
Tel. (03) 3874-7646 Fax. (03) 3875-0880
Email fha@tokyo.email.ne.jp URL http://www.fha.gr.jp/
※ 転載複製